

第5章

キャンパス・建物

宮野健次郎所長の決断により、本部からの予算に頼ることなく、新日本石油（新日石）からの寄付金と大学本部からの借入れによって「自前」での建設が決定されたものである。プロポーザルコンペの結果、新棟の建築設計は東畑建築事務所、設備設計は総合設備コンサルタントに委託された。これまで駒Ⅱキャンパスの基本計画が原広司氏、2005年に竣工した3号館の設計が原氏の門下生である小島一浩氏によって担われ、一体的に設計されてきたことに鑑みて、3号館南棟の設計にあたっても他の建物との連続性が意識されている。

完成した新棟には新日石との産学連携による産学連携新エネルギー研究施設が設けられたほか、一階には170人収容のENEOSホールが備えられ、シンポジウムや講演会に活用されている。ホール以外の建物内部は、使いやすいシンプルな設計によって床面積の有効活用を図るとともに、多様な研究スタイルに対応して仕様を変更可能にすることで研究室の流動性を確保し、さらにゾーンごとのセキュリティを導入することで安全性を向上させるなど、最適な研究環境が実現されている。建築基準法改正の影響で、当初の予定とは異なり3号館と独立して完成した南棟であったが、その後、渡り廊下での接続が検討され、南棟からの片持ち梁でブリッジをかけることによって両棟が接続された。

今後も、キャンパス計画に従って順次整備が進められる予定である。